

～重度重複と高齢の聴覚障害者の発達と権利を考える～

# 第15回 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会 京都集会 開催要綱

2011年11月19日(土) 20日(日) 於：大谷大学

## 主 旨

去る3月11日、東北、関東地方を襲った大地震、津波は28000名を超える死者・行方不明者を出す未曾有の大災害となりました。さらに福島県での原子力発電所の事故による被害も甚大です。全日本ろうあ連盟をはじめとする関係団体は「東日本大震災聴覚障害者救援中央本部」を組織し、現在全国レベルでの緊急支援行活動を展開しています。「大津波警報は聴覚障害者に届いていたのか」「避難所での情報格差が生じていないか」、そして「今後の『復興』プロセスの中で、障害者の暮らしが置き去りとなるようなことはないか」、地震や津波が「自然災害」であったとしても、障害ゆえに被害の様相がさらに深刻化するとなればこれは「人災」といわざるを得ません。「わたしたち抜きにわたしたちのことを決めないで」という当事者の声をくみ上げた総合福祉法(仮称)の国会上程は、来年に迫っています。「天災」を決して「人災」へと転じさせないためにも、新しい制度の検討は一層重要になっています。このような情勢の下で第15回研究交流集会京都集会は開催されます。

本集会では障害当事者そして関係者の実践や研究の交流を通して「①全国の重複・高齢の聴覚言語障害者の事業所の支援実践を交流し前進させる ②ろう者の生活ニーズと発達の願いから新たに事業の創設を進めようとしている地域の関係者を励ます ③公的責任に基づく事業の創設に必要な法制度を明らかにする」ことをめざします。

全国のなかまとともに、誰もが安心してくらせる新たな法制度整備の動きと連動して、重複・高齢聴覚言語障害者の発達と権利保障の前進に努めます。

## 1 主 催

社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会  
社会福祉法人 埼玉聴覚障害者福祉会  
社会福祉法人 東京聴覚障害者福祉事業協会  
社会福祉法人 大阪聴覚障害者福祉会  
社会福祉法人 ひょうご聴覚障害者福祉事業協会  
全国ろう重複児・者家族連絡会  
(協力) 社会福祉法人 滋賀県聴覚障害者福祉協会

## 2 主 管

第15回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会京都実行委員会  
社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会  
社会福祉法人 滋賀県聴覚障害者福祉協会  
京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク

(構成団体) (社) 京都府聴覚障害者協会 京都府難聴者協会 京都手話通訳問題研究会  
京都言友会 (NPO) 京都市中途失聴・難聴者協会 京都府立聾学校PTA 京都府立高等学校  
教職員組合ろう学校分会 全国福祉保育労働組合聴言センター分会 京都府手話サークル連絡会  
京都府要約筆記サークル連絡会 京都北部いこいの村建設委員会 口丹聴覚言語障害者ネット  
ワーク委員会 聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築く京都市ネットワーク 聴覚言語障害者の豊かな  
暮らしを築く乙訓ネットワーク委員会 聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築く山城ネットワーク  
委員会

### 3 後援(予定)

厚生労働省 京都府 京都市 京都府市長会 大谷大学  
京都府町村会 京都府教育委員会 京都市教育委員会  
(社福)京都府社会福祉協議会 (社福)京都市社会福祉協議会  
(財)京都新聞社会福祉事業団 (社福)全国社会福祉協議会  
(社福)NHK厚生文化事業団 (社福)読売愛と光の事業団  
(公益財団法人)毎日新聞大阪社会事業団 KBS京都  
(社福)朝日新聞厚生文化事業団  
京都府身体障害者団体連合会 (社)京都市身体障害者団体連合会

### 4 協賛(予定)

(財)全日本ろうあ連盟 (社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会  
(一般社団)全国手話通訳問題研究会 (社福)全国盲ろう者協会  
(一般社団)日本手話通訳士協会 全国障害者問題研究会  
(社福)全国手話研修センター (社福)きょうされん  
障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会  
京都障害児者の生活と権利を守る連絡会  
全国ろう重複障害者施設連絡協議会  
全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会  
(NPO)全国聴覚障害者情報提供施設協議会  
ろう教育の明日を考える全国連絡協議会  
全国聾学校PTA連合会 京都府立聾学校PTA  
京都府耳鼻咽喉科専門医会 全国難聴児を持つ親の会

5 開催規模 500名

### 6 開催場所

大谷大学 京都市北区小山上総町

(京都市営地下鉄烏丸線 国際会館行「北大路」駅上)

### 7 参加申込み

1) 集会参加資料代 5000円

2) 昼食代(お茶つき) 1000円 (11月20日のみ)

3) 第14回報告集 1000円 昨年(2010年)兵庫集会の報告集です。

昨年度の到達を報告集でご確認のうえ、ご参加ください。

4) 宿泊 宿泊は各自でお申し込みください。集会の時期は観光シーズンと重なり、宿泊の予約が非常に取りにくい状態となります。実行委員会指定の旅行代理店(宿泊に関する業務代行:アサカ観光社)からの予約をお勧めします。詳細は別添宿泊申込書をご参照ください。

5) 介助保育 ご家族の参加を保障するために、別室にて介助(ろう重複児・者)及び幼児保育を行います。

詳細、別紙案内文参照。

6) 参加申込み方法 別紙申込書に必要事項をご記入の上、集會事務局にFAXにて申し込んでください。

7) 送金方法 お申込みと同時に郵便振替にて諸費用をお振り込みください。通信欄には費用内訳を記入してください。  
詳細別紙参照。

振込先(郵便振替) 口座番号00930-5-226772

加入者名 第15回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会

8) キャンセル 諸費用受領後のキャンセルの場合は返金できません。

9) 申込締切 2011年9月30日(金) 必着

## 8 分科会レポートについて

施設や作業所での日々の援助実践、また地域での取り組みの様子や聴覚障害者の支援課題の問題提起などをまとめ、討論を通して次の取り組みを明らかにし、ニーズに基づいて先駆的に実践展開されている支援や研究成果の報告をおねがいします。参加者が共有して参考として持ち帰り、全国各地で援助を必要としている聴覚障害者への支援の輪を拡げるためにも、積極的にレポートを発表してください。なお、レポート・報告資料等の作成に当たりましては、プライバシー保護に対する配慮をお願いいたします。

募集の詳細は京都市聴覚言語障害センターホームページ、又は集会事務局までお問合せください。

※「レポート提出計画書」締め切り 8月31日（水）必着  
「レポート原稿」 締め切り 9月20日（火）必着

## 9 自主製品販売

実行委員会では販売場所を提供いたします。委託販売ではありません。詳細は集会事務局までお問合せください。

※申し込み締め切り日 9月30日（金）

## 10 自主交流会

集会参加者が自主的に開催する「自主交流会」の企画・発起人を募集します。「活動・運動をともにする全国の仲間と情報交換がしたい」、「同じ職種の仲間と仕事の悩みを語りたい」など、集いの機会を希望される方、事務局までお知らせ下さい。会場の提供をさせていただきます。

詳細は集会事務局までお問合せください。

※締め切り日9月30日（金）

## お問合せ・お申込みについて

下記QRコードからお問合せが出来ます。QRコードは携帯電話のバーコードリーダーから読み取り、使用することができます。お問い合わせの際は、お問合せ内容、電話番号、FAX番号、を必ず記入してください。また、FAX、電話でのお問合せも可能です。実施要綱・各種申込み用紙は、京都市聴覚言語障害センターHPからダウンロードが可能です。

## お問合せ・お申込み先

○レポートに関すること

いこいの村聴覚言語障害センター 担当 三宅・永井  
〒629-1241 京都府綾部市十倉名畑久瀬谷2番地

電話 0773-46-0101

FAX 0773-46-0610

メールアドレス

[k.miyake@kyoto-chogen.or.jp](mailto:k.miyake@kyoto-chogen.or.jp)



○集会全般に関すること

京都市聴覚言語障害センター 担当 山田・池原  
〒604-8437 京都市中京区西ノ京東中合町2番地

電話 075-841-8336

FAX 075-841-8311

メールアドレス

[yamada@kyoto-chogen.or.jp](mailto:yamada@kyoto-chogen.or.jp)



ホームページ 「京都市聴言センター」で検索してください。

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/index.shtml>



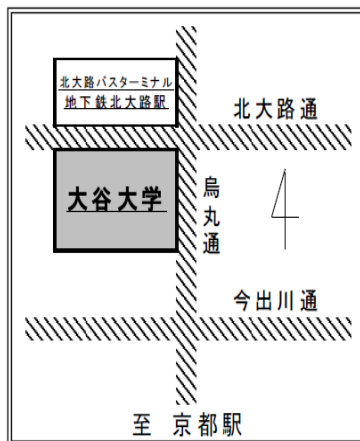
# 日程表・全体会

## 日程表

19日(土)			時刻	20日(日)		
入門講座	分科会	介助・保育		入門講座	分科会	介助・保育
			9			
			10	入門講座・分科会 9:00~12:00		
			11			
	共同研究者・ 司会者打合せ	保護者から 引継ぎ	12	屋食		介助・保育
	受付 12:00~ 開会式・基調報告 12:45~		13			
		介助・保育	14	入門講座・分科会 13:00~14:45		
	特別講演 13:00~14:30		15	移動 閉会全体会 15:00~16:00		
	移動		16			保護者へ 引継ぎ
	入門講座・分科会 14:45~17:00		17			
	移動		18			
	自主交流会(自由参加) 17:15~18:30		19			

## アクセス

京都駅から、  
 ○鉄道を利用の場合  
 ・地下鉄烏丸線「京都駅」より  
 「北大路駅」下車  
 ○バスを利用の場合  
 ・京都市バス206号系統  
 「千本通 北大路バスターミナル」行き  
 ・京都市バス205号系統  
 「四条河原町 北大路バスターミナル」行き  
 ※ 会場に駐車場はありません。  
 必ず公共交通機関をご利用ください。



## 開会全体会

- 開会あいさつ  
第15回 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会  
実行委員会 委員長 竹谷 明
- 基調報告  
集会事務局長 山田 雅世
- 特別講演  
「地域・施設における合理的配慮」  
木下 武徳 氏 (北星学園大学准教授)

## 閉会全体会

- 特別報告  
「東日本大震災の支援活動とこれから」  
東日本大震災聴覚障害者救援中央本部
- 集会まとめ  
集会事務局次長 三宅 恵子
- 次年度開催地への引継ぎ
- 閉会あいさつ  
社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会  
理事長 高田 英一

# 入門講座

入門講座では先駆的な取り組みの報告を通じて「聴覚障害」への理解を深めていきます。ここでしか聞けない貴重な報告を聞こうと、施設関係者だけでなく聴覚障害者団体、手話サークルの方々などから毎年多くの参加があります。二日間を通じて、全講座受講できます。

## 講座1 「子どもたちの放課後の充実を！ 聴覚障害児デイサービス！」

愛知 特定非営利活動法人つくし

「聴覚・ろう重複センター楓」

2005年「ひとりぼっちの家族をなくそう」という願いをもとに「東海聴覚・ろう重複児・者家族セミナー」をはじめたことをきっかけに、2010年4月には児童デイサービスの設立へと発展してきました。毎日通う子どもたちにとっては、もはや楓なしの放課後は考えられないほど生活の一部となっています！

## 講座2 「ミニデイサービスで生きがい作り！」

鳥取 コミュニケーション支援センターふくろう

2006年、県内のコミュニケーション支援の中核として当センターを設立。聴覚障害者への相談活動の中からそれまで埋もれていた様々な課題が表面化してきました。そこでミニデイサービスを立ち上げ、生きがいづくりや集団づくりなど取り組みを始めています。

集まっている仲間一人一人にうれしい変化が見られてきました！

## 講座3 「台風23号の教訓から ～聴覚障害者の拠点づくりを～」

兵庫 たじま聴覚障害者センター

2004年の台風23号による水害をきっかけに、聴覚障害者の拠点づくりの必要性が一層大きくなり、「たじま聴覚障害者センター」を設立しました。聴覚障害者の集う場、働きの場、生きがいの場となっています！

## 講座4 「地域生活を支える拠点づくり ～聴覚言語障害者支援センターと 地域活動支援センターを併設して～」

京都 舞鶴市聴覚言語障害者支援センター

舞鶴市聴覚言語障害者地域活動支援センター『つるの会』

京都府北部地域では、聴障関係団体がネットワーク組織をつくり（京都北部いこいの村建設委員会）、聴覚障害者の『豊かな暮らし』を合言葉に運動を進めてきました。北部の各地域にコミュニケーション支援や生活相談のための「聴覚言語障害者支援センター」と仲間作りや生きがいづくりのための「地域活動支援センター」とを併設させ、地域生活を支える拠点としての役割を果たしています。

## 講座5 「仲間ひとりひとりの願いを大切に ・・・日中活動の取り組み」

大阪 障害福祉サービス事業（多機能型）あいらび工房

「卒業しても働く場がない！」「コミュニケーションが保障された集団がほしい」という切実な思いから大阪全体で施設運動に取り組み、2007年に開所しました。障害者自立支援法の下、生活介護、就労移行支援、就労継続支援の3事業を選択し、なかまたちの様々な願いや課題に取り組んでいます。

## 講座6 「施設から地域へ ケアホームの実践」

京都 いこいの村 栗の木寮

今年4月に開所しました。一般就労を実現した仲間、将来はアパートや生まれ育った地域での生活と仲間の夢は膨らみます。ろう重複の仲間にとっての新たな一歩となっています。

## 特別デモンストレーション

「あなたをステキにする犬と、暮らしてみませんか？」

～聴導犬育ての、はじめの一歩～

滋賀県聴覚障害者福祉協会 JAPAN聴導犬育成事業

私たちは全国の聴覚障害者支援組織として唯一、聴導犬の育成をしています。聴覚障害者に寄り添った「人と犬との共同作業」の日々の積み重ねの成果が、聴導犬を増やし、聴覚障害者の暮らしを豊かにすることに繋がります。

# 分科会

## 分科会を一部変更しました

これまで以上に、現状にあった討論ができるように、以下のように分科会を変更しました。

### 第14回集会

#### 第四分科会

「高齢聴覚障害者の  
介護を考える」

#### 第五分科会

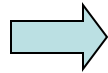
「地域生活を考える」

#### 第一分散会

～高齢聴覚障害者～

#### 第二分散会

～重複聴覚障害者～



### 第15回集会

#### 第四分科会

「高齢期を支える」

#### 第一分散会

～施設での豊かな  
暮らしをつくる～

#### 第二分散会

～より暮らしやすい  
制度をつくる～

#### 第五分科会

「地域生活を支える」

## 第一分科会『労働と発達を考える』

共同研究者 栗津浩一氏 きょうされん京都支部長

「働く」ということは、暮らしを支える収入を得る、利用者自らの生きがい、人々や社会とつながるなど、様々な意味が含まれます。また、余暇やプライベートな時間の過ごし方が「人が豊かに働く」ことを支える大切な要素でもあります。

「働く」には多様な要素を含んでおり、利用者が働くことを支援する私たちにも様々な創意工夫が求められます。障害のある利用者にとって、働くことの意味や目的は何か、生きがい、目標や希望など、日々の支援の中で利用者が投げかけてくれる。そんな様子と様々な創意工夫を交流します。

キーワード：

- 重複の人たちを地域でどのように就労につなげていくのか。地域で働くための支援。
- 重度の人の労働・発達保障のあり方。

## 第二分科会『心と体の健康づくり』

### ～第一分散会～ 「こころの健康」

共同研究者 藤田保氏 琵琶湖病院医師

精神保健をテーマに、病院・通訳者・施設・作業所など様々な立場からの意見交換や討議がおこなわれ、課題を明らかにしてきました。

精神障害のある方の心に寄り添う支援のあり方をどの様に進めるのか。（生育歴や環境を理解した上での、家族支援も含めた支援のあり方）参加者との意見交換を大切にしながら、私たちにできることは何かを意見交換します。

キーワード：

- 精神障害のある方の心に寄り添った支援
- 人とのつながりを取りにくい人のケアをどうするのか
- 家族支援・継続的な支援ができる環境づくり

## 第二分科会『心と体の健康づくり』

### ～第二分散会～ 「からだの健康」

共同研究者 片倉和彦氏 東京都西多摩郡双葉会診療所長  
からだの健康をテーマに、多種多様な健康へのニーズを深く見つめ直します。

入所、通所、地域生活等のあらゆる支援の場面で、当事者や支援者が抱えている「からだの健康」に関する悩みや課題を交流します。

キーワード：

- 病識を支える教材づくり、伝え方
- 性の問題
- 重い病気と向き合う支援
- 「食べる」を支える
- 対象者のサインを見逃さない力

## 第三分科会『コミュニケーション保障と 集団作り』

共同研究者 竹沢清氏 岐阜大学非常勤講師 元千種聾学校教諭  
「その人の分かる方法をつかむ関わり、その方法の試行錯誤、互いに伝わったときの喜び、それらを含めてコミュニケーションになる」わかる、伝わる、伝わったときの喜びを共有するなど、コミュニケーションが成り立つことで集団が生まれ、また集団の中からコミュニケーションが育ちます。コミュニケーション保障と集団づくりの実践を交流します。

キーワード：

- 「自治会活動のあり方」
- 「利用者が主体となった取り組みの進め方」
- 「役割のある生活づくり」
- 「個別支援が光る集団支援とは」
- 「地域活動支援センター」

## 第四分科会『高齢期を支える』

### ～第一分散会～

#### 「施設での豊かな暮らしをつくる」

共同研究者 奥本初実氏 いこいの村・梅の木寮 施設長  
高齢期を迎えたときに、どんな支えがあれば安心して暮らすことができるでしょうか。

その人らしい人生を尊重し、生きる意欲を持っていただくための援助や介護について実践を交流します。

キーワード：

- 安心してらせる環境とは
- リハビリテーション
- ターミナルケア

### ～第二分散会～

#### 「より暮らしやすい制度をつくる」

共同研究者 清田廣氏 (社)大阪聴力障害者協会副会長  
地域で暮らし続けるためには、地域や関係機関と連携した支援体制が必要になります。それぞれの地域の実践交流を中心に、歴史的背景を含めて「その人らしい地域生活」支援のあり方を考えます。

また、実践交流から制度の問題点・課題を明らかにします。

キーワード：

- 介護保険改革の問題点
- 介護保険の見直しを見据えた支援の中身の具体化。

## 第五分科会『地域生活を支える』

共同研究者 山口慎一氏（社福）埼玉聴覚障害者福祉会常務理事

地域での自立した生活を支援するためには既存の資源に加えて、新しい社会資源の創出が必要になることもあります。どのような資源があれば地域で豊かに暮らせるのか。また、支援体制はどうあるべきか等を実践交流から考えます。

キーワード：

- グループホーム、ケアホーム、就労支援、盲ろう、移動支援、地域活動支援センター

## 第六分科会『家族の願いと家族会』

共同研究者 細野浩一氏（社福）埼玉聴覚障害者福祉会理事

家族の経験や悩み、想いを出し合いましょう。また、これからの家族のねがいを出し合い、施設や制度についての意見をまとめていきましょう。

キーワード：

- 親・兄弟・家族の想い、交流
- 親の高齢化
- 親亡き後

## 第七分科会『福祉実践と福祉制度のあり方』

共同研究者 峰島厚氏 立命館大学産業社会学部教授

障害者自立支援法など制度が激変するなかで、積極的な事業運営を考えます。新体系後の施設・事業所の現状を交流し、制度改善に向けた課題を整理し、取り組みや運動を考えます。また、幼児期から青年期の支援のあり方や課題、制度化についても、実践交流から学び、検討します。

キーワード：

- 新体系後の課題
- 幼児期から青年期に関する事業の制度についての課題